

n を自然数とし、

$$S_0 = \sum_{k=0}^n {}_{3n}C_{3k}, S_1 = \sum_{k=0}^{n-1} {}_{3n}C_{3k+1}, S_2 = \sum_{k=0}^{n-1} {}_{3n}C_{3k+2}$$

とおく。また、 ω を $x^3 - 1 = 0$ の1でない解とする。

- (1) $\sum_{k=0}^{3n} {}_{3n}C_k \omega^k$ の値を求めよ。
 (2) S_0 の値を求めよ。

< '97 岐阜大 改 >

【戦略】

- (1) 二項定理の活用を匂わす Σ 計算です。

$(1+x)^n = 1 + {}_n C_1 x + {}_n C_2 x^2 + \dots + {}_n C_n x^n$ という式を基にすれば

$$(1+\omega)^{3n} = 1 + {}_{3n}C_1 \omega + {}_{3n}C_2 \omega^2 + \dots + {}_{3n}C_{3n} \omega^{3n}$$

すなわち、今回求める $\sum_{k=0}^{3n} {}_{3n}C_k \omega^k$ が

$$\sum_{k=0}^{3n} {}_{3n}C_k \omega^k = (1+\omega)^{3n}$$

として立式できます。

あとは1の虚数3乗根 ω の基本性質 $\begin{cases} \omega^3 = 1 \\ \omega^2 + \omega + 1 = 0 \text{ を適宜用いて} \\ \omega^2 = \overline{\omega} \end{cases}$

いくことを眺みながら式変形していきます。

- (2) $S_0 = {}_{3n}C_0 + {}_{3n}C_3 + \dots + {}_{3n}C_{3n}$
 $S_1 = {}_{3n}C_1 + {}_{3n}C_4 + \dots + {}_{3n}C_{3n-2}$
 $S_2 = {}_{3n}C_2 + {}_{3n}C_5 + \dots + {}_{3n}C_{3n-1}$

と、具体的に書き下してみると、 $S_0 + S_1 + S_2$ と全て加えれば

$$S_0 + S_1 + S_2 = (1+1)^{3n} (= 8^n)$$

ということに気がつきやすいでしょう。

また、 ${}_n C_k = {}_n C_{n-k}$ なのでよくよく観察してみると

$$S_1 = {}_{3n}C_1 + {}_{3n}C_4 + \dots + {}_{3n}C_{3n-5} + {}_{3n}C_{3n-2}$$

$$S_2 = {}_{3n}C_2 + {}_{3n}C_5 + \dots + {}_{3n}C_{3n-4} + {}_{3n}C_{3n-1}$$

S_1, S_2 は互いに逆順に並んでいるだけであり、 $S_1 = S_2$ であることになり、先ほどの $S_0 + S_1 + S_2 = 8^n$ は、 $S_0 + 2S_1 = 8^n$ となります。

あと一つ何か関係式を Get したいところですが、(1) がヒントでしょう。

$$\begin{cases} \omega = \omega^4 = \omega^7 = \dots = \omega^{3n-2} \\ \omega^2 = \omega^5 = \omega^8 = \dots = \omega^{3n-1} \\ 1 = \omega^3 = \omega^6 = \omega^9 = \dots = \omega^{3n} \end{cases}$$

であることに注意すると、

$$\sum_{k=0}^{3n} {}_{3n}C_k \omega^k = S_0 + S_1 \omega + S_2 \omega^2$$

$$= S_0 + S_1 (\omega + \omega^2)$$

$$= S_0 - S_1$$

となり、 $S_0 - S_1$ の情報が得られるため、解決です。

【解答】

- (1) $\omega^3 - 1 = 0$ 、すなわち $(\omega - 1)(\omega^2 + \omega + 1) = 0$ を満たしており、 $\omega \neq 1$ であることから、題意の ω は

$$\begin{cases} \omega^3 = 1 \dots \textcircled{1} \\ \omega^2 + \omega + 1 = 0 \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

を満たしている。

二項定理より、

$$\sum_{k=0}^{3n} {}_{3n}C_k \omega^k = (1+\omega)^{3n}$$

$$= (-\omega^2)^{3n} (\because \textcircled{2})$$

$$= (-1)^{3n} \cdot \omega^{6n}$$

$$= \{(-1)^3\}^n \cdot (\omega^3)^{2n}$$

$$= (-1)^n (\because \textcircled{1}) \dots \textcircled{\square}$$

- (2) $S_0 + S_1 + S_2 = \sum_{k=0}^{3n} {}_{3n}C_k$
 $= (1+1)^{3n} (\because \text{二項定理})$
 $= 2^{3n}$
 $= 8^n \dots \textcircled{3}$

ここで、

$$S_1 = \sum_{k=0}^{n-1} {}_{3n}C_{3k+1}$$

$$= \sum_{k=0}^{n-1} {}_{3n}C_{3n-(3k+1)}$$

$$= {}_{3n}C_{3n-1} + {}_{3n}C_{3n-4} + \dots + {}_{3n}C_2$$

$$= \sum_{k=0}^{n-1} {}_{3n}C_{3k+2}$$

$$= S_2 \dots \textcircled{4}$$

- $\textcircled{3}, \textcircled{4}$ より $S_0 + 2S_1 = 8^n \dots \textcircled{5}$

また、

$$\sum_{k=0}^{3n} {}_{3n}C_k \omega^k = {}_{3n}C_0 + {}_{3n}C_1 \omega + {}_{3n}C_2 \omega^2$$

$$+ {}_{3n}C_3 \omega^3 + {}_{3n}C_4 \omega^4 + {}_{3n}C_5 \omega^5$$

$$\vdots$$

$$+ {}_{3n}C_{3n-3} \omega^{3n-3} + {}_{3n}C_{3n-2} \omega^{3n-2} + {}_{3n}C_{3n-1} \omega^{3n-1}$$

$$+ {}_{3n}C_{3n} \omega^{3n}$$

$\textcircled{1}$ に注意すると、

$$\sum_{k=0}^{3n} {}_{3n}C_k \omega^k = ({}_{3n}C_0 + {}_{3n}C_3 + \dots + {}_{3n}C_{3n}) + ({}_{3n}C_1 + {}_{3n}C_4 + \dots + {}_{3n}C_{3n-2}) \omega$$

$$+ ({}_{3n}C_2 + {}_{3n}C_5 + \dots + {}_{3n}C_{3n-1}) \omega^2$$

$$= S_0 + S_1 \omega + S_2 \omega^2$$

$$= S_0 + S_1 \omega + S_1 \omega^2 (\because \textcircled{4})$$

$$= S_0 + S_1 (\omega^2 + \omega)$$

$$= S_0 - S_1 (\because \textcircled{2})$$

これより、 $S_0 - S_1 = (-1)^n \dots \textcircled{6}$

- $\textcircled{5}, \textcircled{6}$ より S_1 を消去して S_0 を求めると、 $S_0 = \frac{8^n + 2 \cdot (-1)^n}{3} \dots \textcircled{\square}$

【総括】

原題は以下のようなでした。

原題

n を自然数とし、

$$S_0 = \sum_{k=0}^n {}_{3n}C_{3k}, S_1 = \sum_{k=0}^{n-1} {}_{3n}C_{3k+1}, S_2 = \sum_{k=0}^{n-1} {}_{3n}C_{3k+2}$$

とおく。また、 ω を $x^3 - 1 = 0$ の 1 でない解とする。

- (1) $S_0 + S_1 + S_2$ の値を求めよ。
- (2) $\sum_{k=0}^{3n} {}_{3n}C_k \omega^k$ の値を求めよ。
- (3) $S_1 = S_2$ が成り立つことを示せ。
- (4) S_0 の値を求めよ。

これだと言われたことをやっているうちに終わってしまう感が強くなって
しまうため、自分で気がつきたい部分についてをカットしました。

今回は ${}_{3n}C_0 + {}_{3n}C_3 + \dots + {}_{3n}C_{3n}$ という 3 つ飛ばしの二項係数の和について
考えました。

話をもっと単純にして

$$T_0 = {}_{2n}C_0 + {}_{2n}C_2 + {}_{2n}C_4 + \dots + {}_{2n}C_{2n}$$

$$T_1 = {}_{2n}C_1 + {}_{2n}C_3 + {}_{2n}C_5 + \dots + {}_{2n}C_{2n-1}$$

という 2 つ飛ばしの二項係数の和を考えてみます。

二項定理から

$${}_{2n}C_0 + {}_{2n}C_1 + {}_{2n}C_2 + {}_{2n}C_3 + \dots + {}_{2n}C_{2n-1} + {}_{2n}C_{2n} = (1+1)^{2n}$$

$${}_{2n}C_0 - {}_{2n}C_1 + {}_{2n}C_2 - {}_{2n}C_3 + \dots - {}_{2n}C_{2n-1} + {}_{2n}C_{2n} = (1-1)^{2n}$$

であり、 $\begin{cases} T_0 + T_1 = 4^n \\ T_0 - T_1 = 0 \end{cases}$ ですから、 $T_0 = 2^{2n-1}$ 、 $T_1 = 2^{2n-1}$ を得ます。

$T_0 - T_1$ とは、 ${}_{2n}C_0 - {}_{2n}C_1 + {}_{2n}C_2 - {}_{2n}C_3 + \dots - {}_{2n}C_{2n-1} + {}_{2n}C_{2n}$ 、すなわち

$$\sum_{k=0}^{2n} {}_{2n}C_k (-1)^k$$

のことです。

1 以外の 1 の 2 乗根

2 つ飛ばしで、 $\sum_{k=0}^{2n} {}_{2n}C_k (-1)^k$

1 以外の 1 の 3 乗根

今回の 3 つ飛ばしでは $\sum_{k=0}^{3n} {}_{3n}C_k \omega^k$ に注目しました。

血が通っているように感じますね。